ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-No.6	調査位置								北　緯	36 ° 59 ’ 40.4400 ”
発注機関	栃木県　大田原土木事務所					調査期間	2008-12-17 ～ 2008-12-17			東　経	140 ° 09 ’ 29.3600 ”
調査業者名		主任技師				現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	273.92 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 10.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	7.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) 測定月日
	273.52	0.40	0.40		黒ボク (Kb)	黒			含水中位で非常に軟質である。植物根を多量に混入する。		
1	272.02	1.50	1.90		ローム (Lm)	茶			含水中位で粘性やや高く、軟らかい。 稀にφ5mm内外の火山礫を混入する。 GL-1.7m以深、幾分か粘性を増す。		
2	269.32	2.70	4.60		凝灰質粘土 (CH)	淡茶灰			火山灰土が粘土化した地層である。 GL-2～3m間、砂分を含有し、幾分かの硬度上昇が見られる。 以深は深度方向に粘性の上昇が伺え、土性は軟質化する。 GL-4m以深、含水やや多い。		12/17 4.60
5	266.92	2.40	7.00		溶結凝灰岩 (Wtf)	灰			上部10cm間、風化・変質により、コアは礫混り粘土状を呈す。 以深、新鮮体へ移行し、コアは長さ20cm内外の棒状を主体に最大コア長65cm程を採取する。 亀裂頻度は低い。 風化・変質は割れ目に沿う脱色程度で岩体内部へは及ばない。		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	1	1	3／30	3
1.45					
2.15	2	1	2	5／30	5
2.45					
3.15	1	1	1	3／30	3
3.45					
4.15	1	1	1	3／30	3
4.45	50／0			50／0	>50
5.00					
6.00	50／0			50／0	>50
6.00					
7.00	50／0			50／0	>50
7.00					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						12/17